

新春対談

文化の家 榎山事務局長とフレンズ 水野会長

親しまれる文化の家をめざし

さらなる協力・協働を約束



右は文化の家 榎山事務局長、左はフレンズ 水野会長
機関紙部員も加わって和やかに対談が進みました

水野 あけましておめでとうございます。今年もよろしく願います。

昨年7月に就任された榎山事務局長とは、文化の家開館当時から15年余のお付き合いで、今までと同様あるいはそれ以上に文化の家とフレンズが良い関係を築いていただけると期待しています。この度、館全体を見る立場になられて新たにフレンズへの思いなど、お考えをお聞きしたいと思います。

榎山 あけましておめでとうございます。今年もよろしく願います。

長久手市全体で市民協働(市民参加)に取り組む昨今、市民参加のさきがけとして開館以来フレンズの皆さんと共に、文化の家を運営してきました。

文化の家は、近隣施設のバイオニア的存在で昨年も全国から自治体や文化会館関係の視察が多数あり、皆さんの関心はハード面から、ソフト面に変わってきています。それに対して文化の家の人的資源を話させてもらっていますが、特に「フレンズ」の活動を紹介すると皆さん驚かれます。フレンズの存在意義は会館運営に欠かせない住民参加であり、すでに完成された形になっていますが、さらに原点に立ち返り、フレンズスタッフとも対話を深めながら、新しいものを模索していきたいと思っています。

水野 良いものは残しながら原点に立ち返るといふのは大切ですね、そのための対話が必要と思います。市民参加とか協働がよく言われる中で、フレンズの活動はなかなかそうとらえられていないと感じることもあります。そんな意味でも対話が必要だと思います。

私が常に感じていることは、フレンズ会員やフレンズのスタッフは文化の家が大好きだということ。ことにフレンズスタッフは来館してくださる皆さんに喜んでいただきたいという思いで活動しています。でもときには思いがすれ違ふことがあります。

榎山 文化の家に対するフレンズの思いは日々の活動を見てよくわかります。人に喜びを与えるということに対しては私たち職員もまだまだ学ばなければいけない点があります。また、文化の家がまちづくりの一躍を担っているなど意識を高めることが大切です。その点フレンズスタッフは次世代につながるための研修も熱心にされてみえるので、フレンズの研修にも参加したりして目線を同じにし、一緒に進んでいきたいと思えます。

◆ くりこ

足をばこんでいただける文化の家に◆

水野 フレンズの会員や文化の家に足を運ばれる方々にもっと喜んでいただき、気楽に立ち寄っていただける会館とともに目指したいですね。ただし文化の家の品格は落とさないで…。

榎山 品格を落とさず気楽に来館してもらえよう。フレンズの皆さんと一緒に進めていきたいと思います。

水野 新しい年に、大勢の皆さんの関心を集めるような事業計画はありますか。